

令和 4 年 5 月 23 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B)（特設分野研究）

研究期間：2017～2021

課題番号：17KT0057

研究課題名（和文）承認をめぐる間主観性の発達に関する研究

研究課題名（英文）Studies on the development of intersubjective recognition

研究代表者

高田 明（TAKADA, AKIRA）

京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・教授

研究者番号：70378826

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 14,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、子どもが他者からの承認を通じて責任を達成していく仕組みを分析することを通じて間主観性が発達する文化的過程、特に以下の3点について明らかにした：1. 子どもと養育者が行動のどの側面をどう調律するのかを明らかにし、原初的な承認を可能にする身体的、感情的な相互理解が構成される過程を論じた；2. 子どもが他者からの承認を通じて行為の責任を達成する際に言語の文法的特徴がどう働くのかを明らかにし、養育者-子ども間相互行為において言語がどう身体化されていくのかを論じた；3. 子どもがその社会に特徴的な慣習を身につける過程を明らかにし、それに対する承認が社会的な制度を内面化するために果たす役割を論じた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

1. 現在隆盛している承認論は、その発達段階に関する根拠をHegel哲学や乳児研究の古典に求めている。本研究を通じて、乳児～幼児期に渡る最新の発達研究に基づいて、そうした承認論の基礎をなす個体の承認に関する議論をより精緻化・拡張すると共に、その理論的な基盤を再考することができた。

2. 発達研究では、乳児期以降の間主観性の発達やその文化的多様性についての議論が十分でない。本研究を通じて、様々な文化的・生態学的環境で子どもが間主観性を発達させる仕組みを明らかにすることで、従来の議論を相対化し、乳・幼児期における間主観性の発達を統合的に論じることができた。

研究成果の概要（英文）：In this study, we investigated the cultural process of development of intersubjectivity through analyzing the mechanisms by which children achieve responsibility through the recognition by others, particularly in the following three areas: 1. We examined how children and caregivers coordinate various aspects of their behaviors through which they constitute the physical and emotional mutual understanding that enables primordial recognition; 2. We clarified how the grammatical features of language work in the child's achievement of responsibility for action through the approval of others, and discussed how language is embodied in the caregiver-child interaction; 3. We demonstrated the process by which children acquire the conventions characteristic of their society, and discussed the role that recognition of these conventions plays in internalizing social institutions.

研究分野：人類学，アフリカ地域研究

キーワード：子ども 相互行為 承認 責任 間主観性

1. 研究開始当初の背景

養育者-子ども間の対面的相互行為は、「共存性を特徴とする社会関係」であるオラリティの基盤をなす。代表者らは、日本を含むアジア・アフリカ諸国でこうした養育者-子ども間相互行為が発達していく文化的・生態学的基盤について研究してきた。平成 19-23 年度の若手(S)(代表:高田)では、相互行為における**応答の力(ability of response)**が基礎となり、子どもと養育者の双方が**責任(responsibility)**を発達させる仕組みを探求し、以下のような責任形成の過程を明らかにした:明確な社会的意味のやりとり以前の**応答(責任 1)**、隣接対(会話分析の用語で、「質問」と「回答」のように対になる 2 つの行為を指す)における呼びかけへの**応答(責任 2)**、隣接対をなす発話の交換に付随して生じる説明(**責任 3**)。また平成 24-27 年度の基盤(A)(代表:高田)では、様々な教育・学習様式を基礎づける文化的・生態学的構造について論じた。代表者らの分析によれば、学習と教育は明示的な「教える」という意図の有無にかかわらず不可分な相互行為上の出来事で、学習は学習者とそのモデルの提示者、教育は教師役と生徒役が協力的に行動を相互調整することで成り立つ。

こうした研究成果と深く関連する概念として、**間主観性(intersubjectivity)**と**承認(recognition)**がある。間主観性は現象学に由来し、オラリティの本質をなすと考えられる。発達研究では、第 1 次間主観性(生後 2 ヶ月頃から始まり、視線、表情、発声が協応しつつ他者と交流する)と第 2 次間主観性(生後 9 ヶ月頃から見られ、他者の意図の理解を媒介としたコミュニケーションを行う)の区別が有名である(e.g. Trevarthen 1979,1999)。ただし、乳児期以降にそれがどう発達するかについては十分な議論がない。また承認、すなわち他者から認められるという概念は近年、マイノリティの権利問題から政治哲学まで幅広い領域で注目されており(e.g. フレイザー 2003)、さらに間主観性の発達に関する理解を刷新させる可能性を秘めている。この動きの推進者であるホネットは、Hegel の承認形式に関わる議論と G. H. Mead の自己論を接合し、**承認をめぐる闘争**という議論を展開している。ホネット(2003)によれば、承認の形式は、それを求める欲求と対応して**個体の承認→人格の承認→主体の承認**という段階を経る。私たちはこうした段階を経て相互行為のパートナーの規範的態度を内面化することで、**自分が社会的に承認されていることに気づいていく**。ただし、適切な尊重が得られないと社会生活の再生産は妨げられ、**承認をめぐる闘争**がもたらされる。上の段階のうち最も基礎的な「**個体の承認**」に関する議論は、人間学のアプローチをとる発達理論に裏打ちされている。Winnicott(1971)によれば、母親の気配りは乳児の行動と融合しており、これが乳児期の間主観性を特徴付けている。こうした共生的な結びつきは、後に承認形式が発達するための不可欠な基盤としての自己信頼をもたらす。

もっともホネットらが理論化したライフコースが普遍的である保証はない。最近の研究はむしろ、**知識体系や生活様式の文化的多様性は、最初期の母子間相互行為にさえ反映していることを示す**。例えば、狩猟採集民は長期に渡る密接な母子関係を形成することが知られ、これは Winnicott らの発達理論の根拠の 1 つとなってきた。しかし近年では、狩猟採集民でも相対的に母親以外がよく子育てに携わり、母子間の密着度が低く、離乳が早い、といった事例が報告されている。したがって、他者からの承認を通じて間主観性が発達していく過程は上記の想定より複雑かつ多様だと考えられるが、これを論じていくための経験的データは未だに不足している。

2. 研究の目的

本研究では、上記の承認形式の最も基礎的な段階とされる**個体の承認**について、以下の仮説を立てる。ある**参与者(参与者 1. ここでは主に養育者)**が行為を行うと、その行為に対して環境における**記号論的資源(記号として用いられる各種の自然物や人工物、言葉、発話の連鎖、ジェスチャー、姿勢など)**がどんな関連性を持つかが、他の**参与者**にも知覚可能になる。次の**参与者(参与者 2. 主に子ども)**は、この関連性に応じて行為を行う。これを次の**参与者(参与者 3. 主に養育者. しばしば参与者 1 と同一人物)**が承認すると、**参与者 2 は責任を達成し、社会生活が再生産されていく**。一方、承認されなかった場合には、**尊重の欠如が表面化し、社会的コンフリクトがもたらされる**。このように、**子どもは養育者からの承認を通じて責任を達成する経験を積み重ねることで間主観性を発達させていく**。本研究は、上記の仮説に関わる普遍的及び文化特異的な側面を経験的手法によって明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

このため、(1)代表者らが日本国内で収集する縦断的データ、(2)若手研究者によるアジア・アフリカ諸国での長期フィールドワークに基づくデータ、(3)海外協力者が収集する関連データを用いて、行動の社会化、文法の身体化、制度の内面化という 3 つの観点から、子どもと養育者の相互行為を分析する。

このため、(1)代表者らが日本国内で収集する縦断的データ、(2)若手研究者によるアジア・アフリカ諸国での長期フィールドワークに基づくデータ、(3)海外協力者が収集する関連データを用いて、以下の 3 つの観点(行動の社会化、文法の身体化、制度の内面化)から、**子どもが他者からの承認を通じて間主観性を発達させていく文化的過程を明らかに**

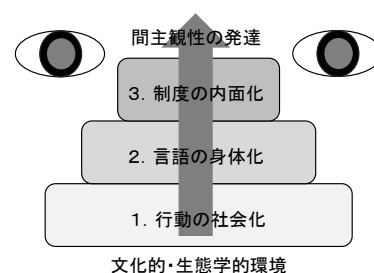


図1 承認を通じた間主観性の発達の概念図

する(図 1).

1. **行動の社会化**：相互行為分析により、子どもと養育者が行動のどの側面をどう調律するのかを明らかにし、原初的承認を可能にする身体的、感情的な相互理解の構成過程を論じる。
2. **言語の身体化**：会話分析により、承認を通じて責任を達成する相互行為において言語の文法的特徴がどう働くのかを明らかにし、言語がどう身体化されていくのかを論じる。
3. **制度の内面化**：言語的社会化論の観点から、子どもがその社会に特徴的な慣習を身につける過程を分析し、それに対する承認が社会的な制度を内面化するために果たす役割を論じる。

4. 研究成果

以下では、年度ごとに研究成果を記す。

プロジェクトの初年度となる平成 29 年度は、まず事務補佐（オフィス・アシスタント）2 名を採用すると共に動画資料の収集・分析に必要な機器を購入した。またボツワナで長期フィールドワークを行っている若手研究者（研究代表者の指導院生）を南アフリカに招へいし、別予算で同地に赴いた研究代表者と本研究に関して収集した資料の集中的な分析を行った。日本国内では京都大学及び九州大学の「赤ちゃん研究員」のリストから協力者を募り、実験的観察法を用いて上記の 3 テーマに関する資料を収集・分析するための準備を進めた。また、本プロジェクトが主催する「承認をめぐる間主観性の発達セミナー」という研究集会の枠組みを設けた。この枠組みのもと、平成 29 年度は語用論の卓越した業績で世界的に知られる Penelope Brown 博士（マックスプランク心理言語学研究所）を招へいし、代表者の本務校で Brown 博士を囲んで初回となる研究集会を開催した。これらと並行して、10 回に渡るデータセッションを行い、分析中の 1 次資料についての意見交換を行った。平成 29 年度はとくに「行動の社会化」に焦点を当て、組織的な分析を行った。これに加えて、本プロジェクトの成果は、研究業績にあげた学術雑誌論文や学術図書の出版、国内外での各種学会・シンポジウム・講演等での発表、および本プロジェクト専用の HP を通じて公開した。

プロジェクトの 2 年目となる平成 30 年度は、事務補佐 1 名、オフィス・アシスタント 2 名を雇用すると共に動画資料の収集・分析に必要な機器を購入した。また、別予算でカメルーンに赴いた若手研究者（研究代表者の指導院生）と本研究に関して収集した資料の集中的な分析を行った。日本国内では上記の「赤ちゃん研究員」のリストから協力者を募り、実験的観察法を用いて上記の 3 テーマに関する資料の収集・分析を進めた。またこれらの研究成果に基づいて、本プロジェクトが主催する「承認をめぐる間主観性の発達セミナー」という研究集会を代表者の本務校で 3 回開催した。これらの資料の収集・分析が予想以上に進んだため、ドイツのケルン大学、イギリスのポーツマス大学、デンマークのオールボルク大学で集中的に分析・考察を行った。これらと並行して、7 回に渡るデータセッションを行い、分析中の 1 次資料についての意見交換を行った。平成 30 年度はとくに「言語の身体化」に焦点を当て、組織的な分析を行った。これに加えて、本プロジェクトの成果を、研究業績にあげた学術雑誌論文や学術図書の出版、国内外での各種学会・シンポジウム・講演等での発表、および本プロジェクト専用の HP を通じて公開した。

プロジェクトの 3 年目となる令和元年度は、技術補佐 1 名、オフィス・アシスタント 1 名を雇用すると共に動画資料の収集・分析に必要な機器を購入した。また、別予算でタンザニアに赴いた若手研究者（研究代表者の指導院生）と本研究に関して収集した資料の集中的な分析を行った。日本国内では上記の「赤ちゃん研究員」のリストから協力者を募り、実験的観察法を用いて上記の 3 テーマに関する資料の収集・分析を進めた。またこれらの研究成果に基づいて、本プロジェクトが主催して設けた「承認をめぐる間主観性の発達セミナー」を継続して行った。令和元年度は Covid-19 対策のため Peg Barratt 博士（ジョージ・ワシントン大学・教授）が本プロジェクトのために行った講演を本プロジェクト専用の HP を通じて Online 配信した。これらと並行して、7 回のデータセッションを行い、分析中の 1 次資料についての意見交換を行った。令和元年度はとくに「制度の内面化」に焦点を当て、組織的な分析を行った。これらの資料の分析・考察の成果に基づいて、ニュージーランドで開催された国際学会で発表するとともに、海外協力者と集中的に検討を行った。これに加えて、本プロジェクトの成果を、研究業績にあげた学術雑誌論文や学術図書の出版、国内外での各種学会・シンポジウム・講演等での発表、および本プロジェクト専用の HP を通じて公開した。

プロジェクトの 4 年目となる令和 2 年度は、オフィス・アシスタント 1 名を雇用すると共に動画資料の収集・分析に必要な機器を購入した。また、別予算で東南アジアの研究協力者と本研究に関して収集した資料の集中的な分析を行った。日本国内では上記の「赤ちゃん研究員」のリストから協力者を募り、実験的観察法を用いて得た上記の 3 テーマに関する資料の分析を進めた。またこれらの研究成果に基づいて、データセッションを 1 回、語用論セミナーを 9 回開催し、分析中の 1 次資料についての意見交換を行った。令和 2 年度はとくに「行動の社会化」「言語の身体化」「制度の内面化」の関連に焦点を当て、組織的な分析を行った。これらの資料の分析・考察の成果に基づいて、第 2 回社会言語科学会シンポジウム「多声を聴く、他者と生きる：言語から人と経験世界の多様性を問い直す」や「第 119 回現代人類学研究会：文化人類学を自然化する」などで発表するとともに、隣接分野の研究者と集中的に検討を行った。また、代表者が本研究プロジェクトの中心的な成果の 1 つとなる英文単著 *The ecology of playful childhood* を出

版した。これに加えて、本プロジェクトの成果を、研究業績にあげた学術雑誌論文や学術図書の出版、国内外での各種学会・シンポジウム・講演等での発表、および本プロジェクト専用の HP を通じて公開した。ただし、当初予定していた研究資料の組織的分析、招へいや出版に関わる企画のいくつかは、コロナ禍のため年度内に終わることができなかった。

予算の一部を繰り越し、プロジェクトの事業最終年度として位置づけることにした令和 3 年度は、オフィス・アシスタント 1 名を採用すると共に動画資料の収集・分析に必要な機器を購入し、これまでに本研究に関して収集した資料の集中的な分析を行った。またこれらの研究成果に基づいて、データセッションを 6 回開催し、分析中の 1 次資料についての意見交換を行った。令和 3 年度は令和 2 年度に引き続き「行動の社会化」「言語の身体化」「制度の内面化」の関連に焦点を当て、組織的な分析を行った。また、本プロジェクトで主催する「承認をめぐる間主観性の発達セミナー」を 3 回組織・開催した。これに加えて、本プロジェクトの成果は、研究業績にあげた学術雑誌論文や学術図書の出版、国内外での各種学会・シンポジウム・講演等での発表、および本プロジェクト専用の HP を通じて公開した。またコロナ禍のため、本プロジェクトで主催する「承認をめぐる間主観性の発達セミナー」やそれ以外の学会・シンポジウムではオンラインでの講演・議論を活用した。これらにより、予算規模は小さいが、プロジェクトの基本方針に沿って研究を進めることができた。したがって、本研究の目標として据えた課題は当初の計画どおりに終わることができた。

参考文献

- ナンシー、フレイザー (2003)『中断された正義：「ポスト社会主義的」条件をめぐる批判的省察』仲正昌樹 (監訳). 東京: 御茶の水書房. 原著は 1997 年刊行.
- ホネット, アクセル (2003)『承認をめぐる闘争：社会的コンフリクトの道徳的文法』山本啓・直江清隆(訳). 東京: 法政大学出版局. 原著は 1992 年刊行.
- Trevarthen, C. (1979) Communication and cooperation in early infancy : A description of primary intersubjectivity. In M. Bullowa (Ed.), *Before speech*. Cambridge: Cambridge University Press, pp. 321-347.
- Trevarthen, C. (1999) Musicality and the intrinsic motive pulse : Evidence from human psychology and infant communication. *Musicæ Scientiæ, Special Issue 1999-2000*, 155-215.
- Winnicott, D. W. (1971) *Playing and reality*. London: Tavistock Publications.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計87件（うち査読付論文 43件 / うち国際共著 16件 / うちオープンアクセス 30件）

1. 著者名 Burdelski, M. & Cekaite, A.	4. 巻 186
2. 論文標題 Pragmatics of crying in adult-child interactions: Introduction to special issue	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Pragmatics	6. 最初と最後の頁 358-363
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2021.10.006	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Cekaite, A. & Burdelski, M.	4. 巻 178
2. 論文標題 Crying and crying responses: A comparative exploration of pragmatic socialization in a Swedish and Japanese preschool	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Pragmatics	6. 最初と最後の頁 329-348
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2021.03.012	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 高木智世, 串田秀也, 黒嶋智美, 林誠, 森田笑, 澤井雪乃	4. 巻 14
2. 論文標題 <逸脱> と <資源> としての非流暢性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ことばと文字	6. 最初と最後の頁 59-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Morita, E.	4. 巻 181
2. 論文標題 Shaping the perceptual field in interaction: The use and non-use of ga in the speech of very young Japanese children	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Pragmatics	6. 最初と最後の頁 270-289
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2021.02.028	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Morita, E.	4. 巻 5(2)
2. 論文標題 Differentiating status through the use of material and interactive resources in young siblings' interaction	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Research on Children and Social Interaction	6. 最初と最後の頁 179-210
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1558/rcsi.17858	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Morita, E.& Kim, K.	4. 巻 188
2. 論文標題 Revisiting grammatical particles from an interactional perspective: The case of the so-called 'subject' and 'topic' particles as pragmatic markers in Japanese and Korean: An Introduction	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Pragmatics	6. 最初と最後の頁 31-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2021.11.014	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 井上昂治, ララディベッシュ, 山本賢太, 中村静, 高梨克也, 河原達也	4. 巻 36(5)
2. 論文標題 アンドロイドERICAの傾聴対話システム - 人間による傾聴との比較評価 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人工知能学会論文誌	6. 最初と最後の頁 H-L51, 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1527/tjsai.36-5_H-L51	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 秋谷直矩, 坂井志織, 高梨克也	4. 巻 13
2. 論文標題 「つながりの実感」を考える	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 質的心理学フォーラム	6. 最初と最後の頁 5-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24525/shitsuforum.13.0_5	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋谷直矩, 坂井志織, 高梨克也	4. 巻 13
2. 論文標題 討論: 現象の記述と規範的コミットメント	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 質的心理学フォーラム	6. 最初と最後の頁 37-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24525/shitsuforum.13.0_37	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高木智世, 森田笑	4. 巻 24(2)
2. 論文標題 問題性への志向を示すメタ相互行為的スタンス標識としての「まあ」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 社会言語科学	6. 最初と最後の頁 65-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Joulian, F., Shimada, M., Takada, A., & Tian, X.	4. 巻 76
2. 論文標題 Waza on the move ou l'art ineffable de l'apprentissage: Introduction	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Techniques & Culture	6. 最初と最後の頁 10-23.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4000/tc.16160	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Takada, A.	4. 巻 76
2. 論文標題 L' imagination anthropologique par le dessin: Croquis des jeux d' enfants san en Afrique australe (Anthropological imagination through drawing: Depicting playful childhood activities among the San of Southern Africa)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Techniques & Culture	6. 最初と最後の頁 56-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4000/tc.16335	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takada, A.	4. 巻 181
2. 論文標題 Pragmatic reframing from distress to playfulness: !Xun caregiver responses to infant crying	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Pragmatics	6. 最初と最後の頁 180-195
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2021.05.021	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Leepile, T. T., Mokomo, K., Bolaane, M. M. M., Andrew, J. D., Takada, A., Black, J. L., Jovel, E., & Karakochuk, C. D.	4. 巻 13(4)
2. 論文標題 Anemia prevalence and anthropometric status of indigenous women and young children in rural Botswana: The San people	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Nutrients 2021	6. 最初と最後の頁 1105-1105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/nu13041105	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Nitta, H., & Hashiya, K.	4. 巻 62
2. 論文標題 Self-face perception in 12-month-old infants: A study using the morphing technique	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Infant Behavior and Development	6. 最初と最後の頁 101479-101479
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.infbeh.2020.101479	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋瀨和秀	4. 巻 -
2. 論文標題 その顔は私だ：赤ちゃんも自覚、社会で生きる術	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本経済新聞	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Moore, E. & Burdelski, M.	4. 巻 59
2. 論文標題 Peer conflict and language socialization in preschool: Introduction to special issue	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Linguistics and Education	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.linged.2019.100758	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Burdelski, M.	4. 巻 59
2. 論文標題 'Say can I borrow it': Teachers and children managing peer conflict in a Japanese preschool.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Linguistics and Education	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.linged.2019.04.002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Burdelski, M., Tainio, L., Routarinne, S.	4. 巻 3 (1)
2. 論文標題 Human-to-human touch in institutional settings: Introduction to the special issue	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Social Interaction: Video-Based Studies of Human Sociality	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7146/si.v3i1.120247.	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Burdelski, M.	4. 巻 3(1).
2. 論文標題 Teacher compassionate touch in a Japanese preschool	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Social Interaction: Video-Based Studies of Human Sociality	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7146/si.v3i1.120248.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kushida, S., Kawashima, M., Abe, T.	4. 巻 265
2. 論文標題 Why this clinic now? A context-sensitive aspect of accounting for visits	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Social Science & Medicine	6. 最初と最後の頁 113278-113278
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.socscimed.2020.113278.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takagi, T.	4. 巻 178
2. 論文標題 Requesting an account for the unaccountable: The primordial nature of [NP+wa?]-format turns used by young Japanese children	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Pragmatics	6. 最初と最後の頁 391-407
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2021.03.026	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Morita, E. & Takagi, T.	4. 巻 169
2. 論文標題 Interjectional use of demonstratives: Anoo and sonoo as resources for interaction in Japanese conversation	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Pragmatics	6. 最初と最後の頁 120-135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2020.07.011	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Endo, T.	4. 巻 172
2. 論文標題 The benefactive -te ageru construction in Japanese family interaction and adult interaction	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Pragmatics	6. 最初と最後の頁 239-253
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2020.11.011	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安井永子, 高梨克也, 遠藤智子, 高田明, 杉浦秀行	4. 巻 21
2. 論文標題 第42回研究大会ワークショップ: 相互行為における指さしの多様性: 会話分析の視点から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会言語科学	6. 最初と最後の頁 92-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.21.2_92	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takada, A. & Kawashima, M.	4. 巻 3
2. 論文標題 Caregivers' strategies for eliciting storytelling from toddlers in Japanese caregiver-child picture-book reading activities	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Research on Children and Social Interaction	6. 最初と最後の頁 196-223
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1558/rcsi.37287	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takada, A.	4. 巻 10
2. 論文標題 Socialization practices regarding shame in Japanese caregiver-child interactions	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 1545
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2019.01545	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 安藤寿康, 明和政子, 橋彌和秀, 亀井伸孝, 中尾 央, 長谷川真理子, 高田 明	4. 巻 58
2. 論文標題 教育の生物学的基盤: 進化か文化か	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育心理学年報	6. 最初と最後の頁 284-290
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5926/arepj.58.284	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高田 明	4. 巻 -
2. 論文標題 子育ての自然誌: 狩猟採集社会からの眼差し(二四): 子育ての危機再考	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ミネルヴァ通信「究」	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高田 明	4. 巻 -
2. 論文標題 子育ての自然誌: 狩猟採集社会からの眼差し(二三): 社会変容と社会化(1)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ミネルヴァ通信「究」	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高田 明	4. 巻 -
2. 論文標題 子育ての自然誌: 狩猟採集社会からの眼差し(二二): 遊びから仕事への移行	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ミネルヴァ通信「究」	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高田 明	4. 巻 -
2. 論文標題 子育ての自然誌: 狩猟採集社会からの眼差し(二一): 歌・踊り活動における参与枠組みと関与	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ミネルヴァ通信「究」	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高田 明	4. 巻 -
2. 論文標題 子育ての自然誌: 狩猟採集社会からの眼差し(二〇): 集団活動における社会化	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ミネルヴァ通信「究」	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高田 明	4. 巻 -
2. 論文標題 子育ての自然誌: 狩猟採集社会からの眼差し(十九): 「文化学習」再考	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ミネルヴァ通信「究」	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高田 明	4. 巻 -
2. 論文標題 子育ての自然誌: 狩猟採集社会からの眼差し(十八): 第二次間主観性の成立と模倣	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ミネルヴァ通信「究」	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高田 明	4. 巻 -
2. 論文標題 子育ての自然誌: 狩猟採集社会からの眼差し(十七): 共に「話す」ことと「うたう」こと	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ミネルヴァ通信「究」	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高田 明	4. 巻 -
2. 論文標題 子育ての自然誌: 狩猟採集社会からの眼差し(十六): 共同注意の発達と初期音声コミュニケーション	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ミネルヴァ通信「究」	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高田 明	4. 巻 -
2. 論文標題 子育ての自然誌: 狩猟採集社会からの眼差し(十五): 生得的コンピテンスと周囲からの働きかけ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ミネルヴァ通信「究」	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高田 明	4. 巻 -
2. 論文標題 子育ての自然誌: 狩猟採集社会からの眼差し(十四): 乳児の反射を利用した養育行動	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ミネルヴァ通信「究」	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高田 明	4. 巻 -
2. 論文標題 子育ての自然誌: 狩猟採集社会からの眼差し(十三): 養育者-子ども間相互行為の発達	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ミネルヴァ通信「究」	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Meng, X., Nakawake, Y., Nitta, H., Hashiya, K. & Moriguchi, Y.	4. 巻 286
2. 論文標題 Space and rank: Infants expect agents in higher position to be socially dominant	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings of the Royal Society B: Biological Sciences	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1098/rspb.2019.1674	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kishimoto, R., Itakura, S., Fujita, K., & Hashiya, K.	4. 巻 61
2. 論文標題 Evaluation of "calculating" helpers based on third-party observation in adults and children	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Psychologia	6. 最初と最後の頁 185-199
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2117/psychoc.2019-A008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Murakami T., & Hashiya K.	4. 巻 28(5)
2. 論文標題 Development in the interpretation of ambiguous referents in 3 and 5 year olds	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Infant and Child Development	6. 最初と最後の頁 e2137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/icd.2137	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hashiya K., Meng X., Uto Y., & Tajiri K.	4. 巻 54
2. 論文標題 Overt congruent facial reaction to dynamic emotional expressions in 9-10-month-old infants	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Infant Behavior and Development	6. 最初と最後の頁 48-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.infbeh.2018.12.002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Morita, E.	4. 巻 3
2. 論文標題 Japanese two-year-olds' spontaneous participation in storytelling activities as social interaction	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Research on Children and Social Interaction	6. 最初と最後の頁 65-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1558/rcsi.37312	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Morita, E., & Takagi, T.	4. 巻 -
2. 論文標題 Interjectional use of demonstratives: Anoo and sonoo as resources for interaction in Japanese conversation	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 -	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Burdelski, M.	4. 巻 3
2. 論文標題 Young children's multimodal participation in storytelling: Analyzing talk and gesture in Japanese family interaction	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Research on Children and Social Interaction	6. 最初と最後の頁 6-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1558/rcsi.38982	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Burdelski, M. & Evaldsson, E-C.	4. 巻 3
2. 論文標題 Young children's multimodal and collaborative telings in family and preschool interaction	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Research on Children and Social Interaction	6. 最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1558/rcsi.37284	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takagi, T.	4. 巻 3
2. 論文標題 Referring to past actions in caregiver-child interaction in Japanese	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Research on Children and Social Interaction	6. 最初と最後の頁 92-118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.21.2_98	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 串田秀也, 川島理恵, 阿部哲也	4. 巻 22
2. 論文標題 先行医師への不満と受診の正当化 医学的に説明のつかない症状の事例を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 社会言語科学	6. 最初と最後の頁 46-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.22.2_46	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤智子	4. 巻 22
2. 論文標題 書評 戸江哲理(著)『和みを紡ぐ：子育てひろばの会話分析』勁草書房, 2018	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会言語科学	6. 最初と最後の頁 275-278
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takanashi, K., & Den, Y.	4. 巻 37
2. 論文標題 Field interaction analysis: A second-person viewpoint approach to Maaï	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 New Generation Computing	6. 最初と最後の頁 263-283
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00354-019-00062-2	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Enomoto, M., & Takanashi, K.	4. 巻 -
2. 論文標題 Multimodal interaction analysis of the usage of Japanese spatio-temporal deixis "KORE" and "SORE" in cooperative activities within intricate material environments	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The 6th IIEEJ International Conference on Image Electronics and Visual Computing (IEVC 2019)	6. 最初と最後の頁 4C-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高田 明, 片岡 邦好, 片桐 恭弘	4. 巻 21
2. 論文標題 20周年記念パネル・ディスカッション「相互行為エンジン仮説」の妥当性と未来 多分野からの検証と提言	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 社会言語科学	6. 最初と最後の頁 407-420
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.21.1_407	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高田 明	4. 巻 3
2. 論文標題 子育ての自然誌: 狩猟採集社会からの眼差し(十二): 日常的な相互行為への注目	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ミネルヴァ通信「究」	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高田 明	4. 巻 2
2. 論文標題 子育ての自然誌: 狩猟採集社会からの眼差し(十一): 心理学と人類学の方法論	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ミネルヴァ通信「究」	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高田 明	4. 巻 1
2. 論文標題 子育ての自然誌: 狩猟採集社会からの眼差し(十): アロ・マザリングへの注目	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ミネルヴァ通信「究」	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高田 明	4. 巻 12
2. 論文標題 子育ての自然誌: 狩猟採集社会からの眼差し(九): 母性神話の復権	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ミネルヴァ通信「究」	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高田 明	4. 巻 11
2. 論文標題 子育ての自然誌: 狩猟採集社会からの眼差し(八): 遊びを通じた成長	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ミネルヴァ通信「究」	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高田 明	4. 巻 10
2. 論文標題 子育ての自然誌: 狩猟採集社会からの眼差し(七): 自然に学ぶこと	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ミネルヴァ通信「究」	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高田 明	4. 巻 9
2. 論文標題 子育ての自然誌: 狩猟採集社会からの眼差し(六): ダーウィンとウォレスの進化論	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ミネルヴァ通信「究」	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高田 明	4. 巻 8
2. 論文標題 子育ての自然誌: 狩猟採集社会からの眼差し(五): ルソーの野望	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ミネルヴァ通信「究」	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高田 明	4. 巻 7
2. 論文標題 子育ての自然誌: 狩猟採集社会からの眼差し(四): リンネの自然観	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ミネルヴァ通信「究」	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高田 明	4. 巻 6
2. 論文標題 子育ての自然誌: 狩猟採集社会からの眼差し(三): 京都の自然学	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ミネルヴァ通信「究」	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高田 明	4. 巻 5
2. 論文標題 子育ての自然誌: 狩猟採集社会からの眼差し(二): カラハリ砂漠のブッシュマン	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ミネルヴァ通信「究」	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高田 明	4. 巻 4
2. 論文標題 子育ての自然誌: 狩猟採集社会からの眼差し(一): 子育ての危機	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ミネルヴァ通信「究」	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Morelli, G., Bard, K., Chaudhary, N., Gottlieb, A., Keller, H., Murray, M., Quinn, N., Rosabal-Coto, M., Scheidecker, G., Takada, A., & Vicedo, M,	4. 巻 89
2. 論文標題 Bringing the Real World Into Developmental Science: A Commentary on Weber, Fernald, and Diop (2017)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Child Development	6. 最初と最後の頁 e594-e603
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/cdev.13115	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Morita, E.	4. 巻 -
2. 論文標題 Japanese two year olds' spontaneous participation in storytelling activities as social interaction	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Research on Children and Social Interaction	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Morita, E., & Takagi, T.	4. 巻 124
2. 論文標題 Marking "commitment to undertaking of the task at hand": Initiating responses with eeto in Japanese conversation	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Pragmatics	6. 最初と最後の頁 31-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2017.12.002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Fukuda, C., & Burdelski, M.	4. 巻 52
2. 論文標題 Multimodal demonstrations of understanding of visible, imagined, and tactile objects in guided tours	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Research on Language and Social Interaction	6. 最初と最後の頁 20-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高木智世	4. 巻 21
2. 論文標題 相互行為現象としての「コミュニケーション障害」- 自閉スペクトラム症児の相互行為上の困難をめぐって-	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 社会言語科学	6. 最初と最後の頁 348-363
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kawashima, M.	4. 巻 21
2. 論文標題 'Mitori'; Practices at a Japanese Hospital: Interactional analysis of the processes of death and dying in Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Discourse Studies	6. 最初と最後の頁 159-179
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森田笑	4. 巻 36 (4)
2. 論文標題 相互行為詞	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本語学	6. 最初と最後の頁 152-163
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takada, A.(Ed.)	4. 巻 54
2. 論文標題 Introduction to the supplementary issue "Reconstructing the paradigm of African Area Studies in a globalizing world"	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Special Issue: Reconstructing the paradigm of African Area Studies in a globalizing world. African Study Monographs, Supplementary Issue	6. 最初と最後の頁 3-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takada, A.(Ed.)	4. 巻 54
2. 論文標題 The Kyoto School of Ecological Anthropology: A Source of African Area Studies at Kyoto University	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Special Issue: Reconstructing the paradigm of African Area Studies in a globalizing world. African Study Monographs, Supplementary Issue	6. 最初と最後の頁 41-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Morelli, G. A., Quinn, N., Chaudhary, N., Vicedo, M., Rosabal-Coto, M., Keller, H., Murray, M., Gottlieb, A., Scheidecker, G., & Takada, A.	4. 巻 49(1)
2. 論文標題 Ethical Challenges of parenting interventions in Low- to Middle-income countries	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Cross-Cultural Psychology	6. 最初と最後の頁 5-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/0022022117746241(invited article)	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Lee, H., Nand, K., Shimizu, Y., Takada, A., Kodama, M., & Masuda, T.	4. 巻 5
2. 論文標題 Culture and emotion perception: Comparing Canadian and Japanese children's and parents' context sensitivity	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Culture and Brain	6. 最初と最後の頁 91-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s40167-017-0052-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Meng, X., Murakami, T., & Hashiya, K.	4. 巻 12(10)
2. 論文標題 Working memory affects children's interpretations of explicit but not ambiguous questions: Research on links between phonological loop and referent assignment	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 PLoS ONE	6. 最初と最後の頁 e0187368
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Endo, T.	4. 巻 123
2. 論文標題 The Japanese change-of-state tokens a and aa in responsive units	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Pragmatics	6. 最初と最後の頁 151-166
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2017.06.010	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤智子, 横森大輔, 林誠	4. 巻 20巻1号
2. 論文標題 確認要求に用いられる感動詞的用法の「なに」: 認知的スタンス標識の相互行為上の働き	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 社会言語科学	6. 最初と最後の頁 110-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takei, N., & Burdelski, M.	4. 巻 37(1)
2. 論文標題 Shifting of “expert” and “novie” roles between/within two languages: Socialization, identity, and epistemics in family dinnertime conversations	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Multilingua: Journal of Cross-cultural and Interlanguage Communication	6. 最初と最後の頁 83-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/multi-2016-0014	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 池谷和信, 岸上伸啓, 佐々木史郎, 戸田美佳子	4. 巻 42 (3)
2. 論文標題 最近の狩猟採集民研究の動向 第11回国際狩猟採集民会議 (CHAGS11) に出席して	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国立民族学博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 321-372
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hamada, A., & Toda, M. (Eds.)	4. 巻 143
2. 論文標題 How do biomedicines shape People 's Lives, socialities and landscapes?	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Senri Ethnological Reports	6. 最初と最後の頁 211
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Toda, M.	4. 巻 143
2. 論文標題 Disability and charity among hunter-gatherers and farmers in Cameroon	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Senri Ethnological Reports	6. 最初と最後の頁 69-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 戸田美佳子	4. 巻 51 (3)
2. 論文標題 作業療法を深める アフリカの障害者 カメルーン熱帯雨林に暮らす障害者からの学び	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 作業療法ジャーナル	6. 最初と最後の頁 231-234
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 戸田美佳子	4. 巻 159
2. 論文標題 評論・展望 アフリカにおける障害者の生活世界 その地域性と歴史性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 民博通信	6. 最初と最後の頁 4-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高梨克也	4. 巻 9
2. 論文標題 多職種チームにおける協働のための工夫と困難: 日本科学未来館展示制作チームのフィールド調査から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 質的心理学フォーラム	6. 最初と最後の頁 45-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計134件 (うち招待講演 32件 / うち国際学会 50件)

1. 発表者名 高梨克也
2. 発表標題 In another context : ~オカベ文に辿り着くまで / 辿り着いてから~
3. 学会等名 日本認知科学会教育環境のデザイン分科会企画「ファンカルチャーのデザイン」を愉しむ会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高梨克也
2. 発表標題 調理法は後から決めてもよいか～あるいは、ブレの技法～
3. 学会等名 日本認知科学会第38回大会0S03「文化的実践における認知研究の相互理解に向けて 理論や世界観と知見の関係を探る」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高梨克也
2. 発表標題 フィールドインタラクション分析の技法としての「活動」概念
3. 学会等名 ことば・認知・インタラクション10
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Takagi, T. & Morita, E.
2. 発表標題 Problem recognition display: The use of maa in Japanese everyday conversation
3. 学会等名 The 17th International Pragmatics Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高田 明
2. 発表標題 オーガナイザー
3. 学会等名 第8回承認をめぐる間主観性の発達セミナー
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高田 明
2. 発表標題 オーガナイザー
3. 学会等名 第7回承認をめぐる間主観性の発達セミナー
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高田 明
2. 発表標題 コメンテーター
3. 学会等名 文化理解の方法論研究会(MC研)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Takada, A.
2. 発表標題 Organizer
3. 学会等名 6th Seminar on the Development of Intersubjective Recognition
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高田 明
2. 発表標題 音楽性の学際的探究からの提言: 「音楽的な子どもたち」に導かれる発達観へ
3. 学会等名 日本発達心理学会第33回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Norimatsu, H., Takada, A., Negayama, K., Kimura, M., Solomiac, S., & Soucas, R.
2. 発表標題 Understanding and Production of teasing in young children: Japanese-French Comparison from the analysis of interview with parents of 0 to 6 year-old children
3. 学会等名 ICP 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高田 明
2. 発表標題 指定討論. 部会企画ラウンドテーブル: 赤ちゃんはつながっている: コミュニカティブ・ミュージカリティから音楽文化へ
3. 学会等名 日本赤ちゃん学会第21回学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高田 明
2. 発表標題 言語の自然化: サンの養育者-乳幼児間相互行為の分析から
3. 学会等名 日本文化人類学会第55回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高田 明
2. 発表標題 クン・サンにおける生業活動と子育て
3. 学会等名 日本アフリカ学会第58回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高田 明
2. 発表標題 むずかりから遊びへの語用論的リフレーミング：クンにおける乳児の泣きへの養育者の応答
3. 学会等名 第12回動的語用論研究会. Zoom ウェビナー（オンライン開催）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高田 明
2. 発表標題 他者と同じように行為すること：サンの養育者 = 乳幼児間相互行為の分析から
3. 学会等名 第119回現代人類学研究会：文化人類学を自然化する. Zoom ウェビナー（オンライン開催）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高田 明
2. 発表標題 心でもなく，文化でもなく.
3. 学会等名 文化理解の方法論研究会(MC研). Zoom ウェビナー（オンライン開催）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高田 明
2. 発表標題 人類学から考える子育て：南部アフリカのサン（ブッシュマン）の調査から
3. 学会等名 令和2年度丸亀高等学校東京同窓会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高田 明
2. 発表標題 日本における言語社会化と「責任」の文化的形成（オーガナイザー）
3. 学会等名 第2回社会言語科学会シンポジウム「多声を聴く、他者と生きる一言語から人と経験世界の多様性を問い直すー（オンライン開催）」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高田 明
2. 発表標題 日本における言語社会化と「責任」の文化的形成
3. 学会等名 公開シンポジウム「ことば・認知・インタラクション」. Zoomウェビナー（オンライン開催）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高田 明
2. 発表標題 （オーガナイザー）
3. 学会等名 第5回承認をめぐる間主観性の発達セミナー（オンライン開催）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 橋瀬和秀
2. 発表標題 こころの進化と発達
3. 学会等名 玉川大学リベラルアーツ学部学際研究会（オンライン開催）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橋彌和秀
2. 発表標題 分かり合えないことから始めるコミュニケーション 司会
3. 学会等名 日本人間行動進化学会 第13回大会（オンライン開催）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 橋彌和秀
2. 発表標題 -
3. 学会等名 チコちゃんに叱られる（NHK）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 橋彌和秀
2. 発表標題 “目”物も心も見抜くセンサー
3. 学会等名 ヒューマニエンス 40億年のたくらみ（NHK-BS）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Burdelski, M.
2. 発表標題 Terima kasih 'Thank you': Learning to express appreciation with a formulaic expression in Indonesian
3. 学会等名 The 4th Symposium on L2 Interaction (online delivery) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高梨克也
2. 発表標題 動作の前に力の大きさを決める
3. 学会等名 第89回人工知能学会言語・音声理解と対話処理研究会パネルディスカッション(オンライン開催) (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高木智世
2. 発表標題 相互行為秩序と間主観性：定形発達児・非定形発達児の相互行為
3. 学会等名 日本語用論学会第23回大会シンポジウム：会話分析の基軸と展開(オンライン開催) (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 戸田美佳子
2. 発表標題 障害と開発
3. 学会等名 2020年度国際開発入門コース, 国際開発機構 (FASID) (オンライン開催)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 戸田美佳子
2. 発表標題 コンゴ盆地狩猟採集民社会における「お留守番」組: 遊動生活とケアに関する一考察
3. 学会等名 生態人類学会第 26 回大会 (オンライン開催)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Endo, T.
2. 発表標題 Body-language collaboration in object transfer requests in Japanese conversation
3. 学会等名 Japanese/Korean Linguistics (オンライン開催) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高田 明
2. 発表標題 オーガナイザー
3. 学会等名 第5回承認をめぐる間主観性の発達セミナー
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高田 明
2. 発表標題 発達研究における4つのレベルと日誌法：サンにおけるジムナスティックの再考。自主シンポジウム：フィールド研究における日誌法の意義
3. 学会等名 日本発達心理学会第31回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高田 明
2. 発表標題 人のコミュニケーションとQoL
3. 学会等名 日立京大ラボシンポジウム：生物の社会性に学ぶQoLの向上をめざした社会システムの可能性（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Takada, A.
2. 発表標題 Pointing as the knot of multiple individuals' lifeworld and the environment
3. 学会等名 Multimodal Research 2019: International Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takada, A.
2. 発表標題 Discussion on pointing at Q&A session
3. 学会等名 Culture and Cognition in Development (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高田 明
2. 発表標題 人類学から考える子守唄と遊戯的な歌：南部アフリカのサンにおける養育者-子ども間相互行為の事例から。プレコングレス「子守唄を歌うのは誰 寝かすことと寝ること」
3. 学会等名 日本赤ちゃん学会第19回学術集会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高田 明
2. 発表標題 コメント：歩行を起点とする発達のカスケード。公募シンポジウム：歩行を起点とする発達のカスケード
3. 学会等名 日本心理学会第83回大会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takada, A.
2. 発表標題 Caregiver's vocal and embodied responses to infant crying among the !Xun of north-central Namibia
3. 学会等名 16th International Pragmatics Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takada, A.
2. 発表標題 Cultural diversity and universality in infant-caregiver interaction: Evidences from the San of southern Africa
3. 学会等名 2019 SPA Biennial (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nitta, H., & Hashiya, K.
2. 発表標題 Development of self-face representation in 12-month-old infants: A study with the preferential looking paradigm using the morphing technique
3. 学会等名 2020 Budapest CEU Conference on Cognitive Development (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 橋瀬和秀
2. 発表標題 「こころの階層性」は誰にとって必要なのか
3. 学会等名 第22回日本語用論学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 孟憲巍, 中分遥, 新田博司, 橋彌和秀, 森口佑介
2. 発表標題 社会的優位性の空間表象とその初期発達
3. 学会等名 第19回日本赤ちゃん学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Morita, E.
2. 発表標題 Toys as multimodal resources for changing participation frameworks in sibling interaction
3. 学会等名 Multimodal Research 2019 International Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Morita, E.
2. 発表標題 The role of sequential organization in children's practices of doing 'being mean'
3. 学会等名 Conference of the International Institute for Ethnomethodology and Conversation Analysis (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Morita, E.
2. 発表標題 Use of ga in very young Japanese children's action design
3. 学会等名 16th International Pragmatics Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1 . 発表者名 Burdelski, M.
2 . 発表標題 Compassionate touch in a Japanese preschool
3 . 学会等名 The European Association on Learning and Instruction (EARLI) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Burdelski, M.
2 . 発表標題 Children ' s crying and caregiver responses in a Japanese preschool
3 . 学会等名 16th International Pragmatics Association (IPrA) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Takagi, T.
2 . 発表標題 Checking how the social world is ordered: [NP + wa?]-format turns used by young Japanese children
3 . 学会等名 16th International Pragmatics Conference (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Jin, Q., & Takagi, T.
2 . 発表標題 Differentiated use of first person pronouns with and without WA in parenthetical inserts in Japanese telling sequences
3 . 学会等名 16th International Pragmatics Conference (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1. 発表者名 Endo, T.
2. 発表標題 Bodily behavior as constructional meaning: The case of benefactive construction in Japanese family interaction
3. 学会等名 The 15th meeting of International Cognitive Linguistics Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Endo, T.
2. 発表標題 Membership and participation: Child as a resource for interaction between in-laws in Japanese casual conversation
3. 学会等名 The 15th meeting of International Pragmatics Association. Hong Kong Polytechnique University (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高梨克也
2. 発表標題 多職種連携における安心と信頼のための実践知の解明
3. 学会等名 2019年度科学基礎論学会シンポジウム「安心と信頼の科学と哲学」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高梨克也
2. 発表標題 成員性と物質 野沢温泉村道祖神祭りのフィールド調査から
3. 学会等名 日本認知科学会第36回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 外山紀子, 西尾千尋, 高梨克也, 根ヶ山光一, 高田明
2. 発表標題 シンポジウム：歩行を起点とする発達のカスケード
3. 学会等名 日本心理学会第83回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高梨克也
2. 発表標題 「慣れることを避ける」仕組み：コミュニティ生涯発達の観点から見た野沢温泉村三夜講
3. 学会等名 日本質的心理学会第16回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 阿部廣二, 高梨克也, 細馬宏通
2. 発表標題 不寛容社会における教養を考える：相互行為分析の実践から
3. 学会等名 日本質的心理学会第16回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takada, A.
2. 発表標題 Socialization practices regarding shame (hazukashii) in Japanese caregiver-child interactions
3. 学会等名 Series of guest lectures in psychology, Center for Developmental & Applied Psychological Science, Aalborg University
4. 発表年 2019年

1 . 発表者名 Takada, A., & Sugiyama, Y.
2 . 発表標題 Re-establishing a good life: Abnormal delivery, rehabilitation treatments, and funerals among the G ui and G ana of Botswana
3 . 学会等名 The Social Anthropology Seminar Series, Department of Social Anthropology, University of St Andrews (招待講演)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Takada, A.
2 . 発表標題 Touching, soothing, and amusing infants among the !Xun of north-central Namibia
3 . 学会等名 The Department of Psychology, University of Portsmouth (招待講演)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Takada, A.
2 . 発表標題 Touching and amusing infants among the !Xun of north-central Namibia
3 . 学会等名 The Anthropology of Senses Seminar Series, University of Cologne (招待講演)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Takada, A.
2 . 発表標題 How the !Xun soothe and amuse infants?
3 . 学会等名 The Research Workshop "Musilanguage in the cradle of different cultures", Middlesex University London (招待講演) (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1. 発表者名 Takada, A.
2. 発表標題 Musicality of infant directed communication among the San of southern Africa
3. 学会等名 The Research Workshop "Musilanguage in the cradle of different cultures", Middlesex University London (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高田 明
2. 発表標題 教育・学習の基盤：進化と文化
3. 学会等名 準備委員会企画シンポジウム5：教育の生物学的基盤：進化か文化か。日本教育心理学会第60回総会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高田 明
2. 発表標題 オーガナイザー
3. 学会等名 第3回承認をめぐる間主観性の発達セミナー
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takada, A.
2. 発表標題 Organizer
3. 学会等名 2nd Seminar on the Development of Intersubjective Recognition
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takada, A.
2. 発表標題 Crying, caregiving and embodied organization of emotion socialization: A tribute to the lifework of M. H. Goodwin
3. 学会等名 The 117th Annual meeting of American Anthropological Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takada, A.
2. 発表標題 Soothing and amusing infants among the !Xun of north-central Namibia
3. 学会等名 The 117th Annual meeting of American Anthropological Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takada, A.
2. 発表標題 Play-to-work transition among the !Xun of north-central Namibia. Paper presented at the panel "Reconsidering play-to-work transition in (post-)hunter-gatherer communities", at the 12th Conference on Hunting and Gathering Societies
3. 学会等名 CHAGS XII (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takada, A., & Xiaojie T.
2. 発表標題 Reconsidering play-to-work transition in (post-)hunter-gatherer communities, at the 12th Conference on Hunting and Gathering Societies
3. 学会等名 CHAGS XII (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takada, A.
2. 発表標題 Features of the participation framework in play and work activities among the !Xun of north-central Namibia. Film presented at the interactive activities "Movies from the field: Play-to-work transitions in (post-)hunter-gatherer communities", at the 12th Conference on Hunting and Gathering Societies
3. 学会等名 CHAGS XII (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takada, A., & Shimada, M.
2. 発表標題 Movies from the field: Play-to-work transitions in (post-)hunter-gatherer communities, Interactive activities at the 12th Conference on Hunting and Gathering Societies (organizer)
3. 学会等名 CHAGS XII (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高田 明
2. 発表標題 乳児後期における姿勢と位置取りの相互行為分析
3. 学会等名 日本発達心理学会第29回大会, 会員企画ラウンドテーブル: 移動運動能力の発達がひらく子どもの世界: 保育園ゼロ歳児クラスの縦断観察データの分析
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高田 明
2. 発表標題 On the "Interaction Engine Hypothesis": Commentaries from Linguistic Anthropological Perspective
3. 学会等名 20周年記念パネルディスカッション. 社会言語科学会第41回大会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高田 明
2. 発表標題 「つなぐ」第4回：子育てを通じた世代間のつながり
3. 学会等名 アフリカ地域研究資料センター 公開講座「アフリカから学ぶこと」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hashiya, K., Kobayashi, H., Uto, Y., Yamate, A., Hakarino, K., Tojo, T., & Hasegawa, T.
2. 発表標題 Speaker identification based on epistemic reasoning in children with/without ASD: a test with the “ knowledge-based ventriloquism illusion ” task
3. 学会等名 BCCCD19 Budapest CEU Conference on Cognitive Development (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hashiya, K.
2. 発表標題 Reading mind / assuming mind in human communication: a developmental perspective
3. 学会等名 Symposium "Intention Sharing and Language Evolution"("Evolinguistics 2018") (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 橋瀬和秀, 小林春美, 大坪康介, 森口祐介, 狩野文浩, 松井智子, 木下孝司
2. 発表標題 「こころ」と「こころの理論」: Theory of Mind概念に再接近する
3. 学会等名 日本発達心理学会第30回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 橋彌和秀, 齋藤慈子, 川口ゆり, 小原一馬, 床呂郁哉, 金沢創
2. 発表標題 「かわいい」の進化と文化
3. 学会等名 日本発達心理学会第30回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 橋彌和秀, 小林洋美, 新田博司, 前山航暉, 計野浩一郎, 東條吉邦, 長谷川壽一
2. 発表標題 Catchers of the Lies: 「わたしたち」にまつわる利他的/利己的な嘘のニュアンスがTD/ASD児者による資源分配に及ぼす影響
3. 学会等名 日本心理学会第82回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 孟憲巍, 中分遙, 橋彌和秀, Burdett, E., Jong, J., & Whitehouse, H.
2. 発表標題 宗教性と社会的優位性の初期発達
3. 学会等名 日本心理学会第82回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井上裕香子, 清成透子, 橋彌和秀
2. 発表標題 利他的な嘘は許容されるのか? 嘘の内容が信頼性評価に与える影響
3. 学会等名 日本心理学会第82回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 孟憲巍, 中分遙, 橋彌和秀, Burdett, E., Jong, J., & Whitehouse, H.
2. 発表標題 乳児の超自然的行為者に対する社会的評価
3. 学会等名 日本赤ちゃん学会第18回学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 富士直斗, 土屋勝太, 橋彌和秀
2. 発表標題 距離判断におけるドップラー効果手がかりの利用
3. 学会等名 日本赤ちゃん学会第18回学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 橋彌和秀
2. 発表標題 私から見る体 / 体から見る私 : 乳幼児発達研究から
3. 学会等名 愛媛大学知覚研究会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 橋彌和秀
2. 発表標題 ソフトウェアとしてのこころの進化
3. 学会等名 先導科学考究 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 橋瀨和秀
2. 発表標題 「教わる」と「教える」のあいだ:その発達の起源
3. 学会等名 シンポジウム「教育の生物学的基盤 進化か文化か」, 日本教育心理学会第60回総会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Burdelski, M.
2. 発表標題 Distress and appeal: Children's crying and caregiver responses in a Japanese preschool (Panel: Crying, caregiver and embodied organization of emotion socialization: A tribute to the lifework of M.H. Goodwin)
3. 学会等名 117th American Anthropological Association Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 平本 毅, 高木 智世, 細田 由利, 森田 笑, 林 誠, 増田 将伸, 城 綾実, 西阪 仰
2. 発表標題 会話分析をどう学ぶか
3. 学会等名 第42回社会言語科学会研究大会ワークショップ
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Toda, M.
2. 発表標題 The Kings of Commerce: The Trans-Border Businesses on the Congo River by. Entrepreneurs with Disabilities
3. 学会等名 Congo Research Network 2018 Conference: Congolese Studies: Past, Present, Future (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 戸田美佳子
2. 発表標題 カメルーンにおけるピース 狩猟採集民社会、牧畜社会、首長制社会の比較
3. 学会等名 日本アフリカ学会第55回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takada, A.
2. 発表標題 Organizer
3. 学会等名 4th Seminar on the Development of Intersubjective Recognition
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Morita, E. & Burdelski, M.
2. 発表標題 2 year old storytelling in dyadic and triadic interaction
3. 学会等名 International Pragmatics Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Favareau, D. & Morita, E.
2. 発表標題 Linguistic particles as interactional affordances
3. 学会等名 International Pragmatics Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Takada, A.
2. 発表標題 Introduction
3. 学会等名 1st Seminar on the Development of Intersubjective Recognition
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takada, A. & Kawashima, M.
2. 発表標題 Caregiver's strategies for eliciting young children's storytelling
3. 学会等名 1st Seminar on the Development of Intersubjective Recognition
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高田 明
2. 発表標題 養育者 - 子ども間相互行為研究への人類学的アプローチ：ナミビア北中部のクン・サンにおける睡眠，授乳，ジムナスティックの分析から
3. 学会等名 子どものこころの分子統御機構研究センター平成29年度連続セミナー第4回（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takada, A.
2. 発表標題 The medium of instruction in North-central Namibia in colonial times
3. 学会等名 7th African Forum: Grahamstown: 'African potentials' to develop alternative methods of addressing global issues (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高田 明
2. 発表標題 文化を再生産する：ブッシュマンとフィールドワーカーの現場で何が起きているか
3. 学会等名 トーク・イベント「アフリカ文化探検の50年から未来を展望する：今、世界が学べること」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高田 明
2. 発表標題 言語人類学，エスノメソドロジー，会話分析 - コミュニケーションの民族誌から相互行為の人類学へ -
3. 学会等名 テーマセッション「エスノメソドロジーと会話分析の半世紀」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高田 明
2. 発表標題 子育ての自然誌：ナミビア北中部のクン・サン（ブッシュマン）の事例から
3. 学会等名 大同生命地域研究賞第11回ミニフォーラム（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高田 明
2. 発表標題 子育ての自然誌：ナミビア北中部のクンにおける養育者 - 子ども間相互行為の事例から
3. 学会等名 第106回日本小児科学会山形地方会 特別講演（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Takada, A. & Sugiyama, Y.
2. 発表標題 The quest to re-establish a good life: Practices associated with the rituals of abnormal delivery and funerals among the G ui and G jana of Botswana
3. 学会等名 The 2017 Satterthwaite Colloquium on African Ritual and Religion: The Moral Imagination (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Takada, A. & Kawashima, M.
2. 発表標題 Caregiver's strategies for eliciting toddlers' storytelling in Japanese caregiver-child interactions
3. 学会等名 15th International Pragmatics Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高田 明
2. 発表標題 音楽の起源再考：サンにおける乳児向け発話の事例分析から
3. 学会等名 ラウンドテーブル3「ヒトの音楽性に迫る：その起源と発達についての多角的検討」日本赤ちゃん学会第17回学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Takada, A.
2. 発表標題 Language Socialization among the San: Reconsidering infant directed speech.
3. 学会等名 "Language Socialisation in trilingual communities in Africa and beyond: Brainstorming Workshop" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高田 明
2. 発表標題 植民地期の南西アフリカ（現ナミビア）北中部における教育媒介言語
3. 学会等名 日本アフリカ学会第54回学術大会（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Takada, A.
2. 発表標題 Reconsidering regional structural comparison
3. 学会等名 the 6th Riezlern Symposium（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Takada, A.
2. 発表標題 Participation in rhythm: !Xun socialization through singing and dancing activities
3. 学会等名 Seminaire special du CLLE-LTC（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Takada, A.
2. 発表標題 Panelist of conversation hour, "Fieldwork and Family"
3. 学会等名 the 46th Annual Meeting of the Society for Cross-Cultural Research (SCCR)（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Takada, A.
2. 発表標題 Practices of early cultural learning: Responsibility formation in caregiver-infant interaction among the G ui/G ana of Botswana
3. 学会等名 the seminar of Laboratoire Ethologie, Cognition, Developpement, Universite Paris Ouest Nanterre La Defense (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Takada, A. The cultural and ecological foundations of ethnicity among the !Xun of North-central Namibia
2. 発表標題 The cultural and ecological foundations of ethnicity among the !Xun of North-central Namibia
3. 学会等名 the seminar of Comprendre les relations Afrique-Asie: espace transversal de recherches et d'enseignement (CRAA-ETRE) (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Takada, A.
2. 発表標題 Participation in rhythm: Peer group interactions among the !Xun San of Namibia
3. 学会等名 Tema Barn Higher seminar spring 2017 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hashiya, K., Kobayashi, H., Maeyama, K., Nitta, H., Hakarino, K., Tojo, T., & Hasegawa, T.
2. 発表標題 Nuances of "we": The effect of utterance contexts on the distribution task performances in children with/without ASD
3. 学会等名 2017 Budapest CEU Conference on Cognitive Development (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yamate, A., & Hashiya, K.
2. 発表標題 Development of expectation for retributive justice, or “Karma” in childhood
3. 学会等名 2017 Budapest CEU Conference on Cognitive Development (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Uto, Y., & Hashiya, K.
2. 発表標題 Four-year-old children selectively imitate the other's “Intentional” action with taking interjection as a cue
3. 学会等名 2017 Budapest CEU Conference on Cognitive Development (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kishimoto, R., Itakura, S., Fujita, K., & Hashiya, K.
2. 発表標題 Preschoolers’ social evaluations of others’ strategically public displays of prosocial behavior
3. 学会等名 2017 Budapest CEU Conference on Cognitive Development (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 孟憲巍, 村上太郎, 橋彌和秀
2. 発表標題 幼児は多義的な質問をどのように解釈するのか？
3. 学会等名 日本心理学会第81回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 斎藤慈子, 池田功毅, 小林洋美, 橋彌和秀
2. 発表標題 乳幼児養育中の母親における「かわいさ」の認知：刺激月齢による変化の検討
3. 学会等名 日本心理学会第81回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 孟憲巍, 村上太郎, 橋彌和秀
2. 発表標題 語用論的解釈にワーキングメモリが及ぼす影響：幼児における指示対象付与と音韻ループの関連性に注目して
3. 学会等名 -
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Takagi, T.
2. 発表標題 Talking about past action in child-caregiver interaction in Japanese
3. 学会等名 The 15th International Pragmatics Association Conference (IprA) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高木智世, 森田笑
2. 発表標題 相互行為資源としての「あのー」および「そのー」
3. 学会等名 第41回社会言語科学学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 遠藤智子
2. 発表標題 中国語を対象とする機能主義言語学・会話分析の展開
3. 学会等名 第7回名古屋大学大学院人文学研究科 言語学分野公開講演会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 遠藤智子
2. 発表標題 中国語のクリックと参与スタンス
3. 学会等名 第7回動的語用論研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 遠藤智子
2. 発表標題 参与構造の創発に関わる諸要因の整理に向けて
3. 学会等名 シンポジウム「日常会話コーパス III」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Endo, T.
2. 発表標題 Infant's pointing and participation framework
3. 学会等名 The 1st seminar on the development of intersubjective recognition
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Endo, T., & Yokomori, D.
2. 発表標題 Interactive functions of verbalizing troubles: Self-addressed questions in Japanese conversation
3. 学会等名 The 25th Japanese/Korean Linguistics Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Endo, T.
2. 発表標題 The Benefactive -te ageru Construction in Japanese child-caregiver interaction
3. 学会等名 The 15th International Pragmatics Association Conference (IprA) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Korenaga, R., Mori, I., Tomoko, E., Ikegami, S., Aoyama, K., Tomita, A., Morimoto, Y., & Ohara, A.
2. 発表標題 Practice of learning through children-caregiver interaction: A case of cleaning-up activity
3. 学会等名 IIEECA 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Burdelski, M.
2. 発表標題 Embodied socialization in preschool: Preparing for a graduation ceremony in a Japanese as a heritage language classroom
3. 学会等名 The 15th International Pragmatics Association Conference (IprA) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Burdelski, M.
2. 発表標題 Two-year olds' storytelling in dyadic and triadic interaction
3. 学会等名 The 15th International Pragmatics Association Conference (IprA) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Burdelski, M.
2. 発表標題 Mediating (potential) conflict situations in preschool: Children's use of reported speech in Japanese
3. 学会等名 American Association for Applied Linguistics (AAAL) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 外山紀子, 高梨克也, 高田明, 細馬宏通
2. 発表標題 移動運動の発達がひらく子どもの世界: 保育園ゼロ歳児クラスの縦断観察データの分析
3. 学会等名 日本発達心理学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高梨克也
2. 発表標題 参与の次の問い: 成員性と関与
3. 学会等名 シンポジウム「日常会話コーパス III」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高梨克也
2. 発表標題 協働作業において相手の環境との関わり方を観察する - 野沢温泉村道祖神祭りの準備における氷点下の木遣りの事例から -
3. 学会等名 日本認知科学会第34回大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計46件

1. 著者名 高梨克也, 木村大治, 花村俊吉, 彭宇潔, 中村美知夫, 牧野遼作, 善積実希, 矢野原佑史, 西江仁徳, 岡田浩樹, 坂井田瑠衣, 坂巻哲也, 幸田瑞希, 居關友里子, 園田浩司, 藪田慎司, 武田浩平, 香田啓貴, 岩谷洋史	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 374
3. 書名 出会いと別れ: 「あいさつ」をめぐる相互行為論	

1. 著者名 高田 明, 遠藤利彦, 中尾達馬, 数井みゆき, 佐藤裕紀子, 倉持清美, 小田切紀子, 北島歩美, 森田展彰, 工藤晋平	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 304
3. 書名 養育者としての男性: 父親の役割とは何か	

1. 著者名 Joulian, F., Shimada, M., Takada, A., & Tian, X.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Techniques & Culture	5. 総ページ数 253
3. 書名 Waza, l'art ineffable de l'apprentissage	

1. 著者名 Takada, A., Sugiyama, Y., Clemens, G., Steven, V. W., Michael, B., Hana, H., Detlef, M., Eric, K., Dorothea, S., Ciraj, R., Richard, G. W., Hugh, C. S., Ian, S., Thomas, W., Ndapewa, F. N., Romie, V. N., Mirjam, B., Ulf, E., Clement, C., Tom, T., Kennedy, M. A., Katrien, P. et. al.	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Brill	5. 総ページ数 387
3. 書名 African Futuers	

1. 著者名 Takada, A.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 269
3. 書名 The ecology of playful childhood: Caregiver-child interactions among the San of southern Africa	

1. 著者名 Yamada, S., Takada, A., Kessi, S. (eds.), Matsuda, M., Tsubura, M., Cornell, J., Ratele, K., Kaneko, M., Shigeta, M., Aminaka, A., Shibuya, K., Ohba, A., Sawamura, N., Nakawa, N., & Mosime, S. T.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Langaa RPCIG	5. 総ページ数 388
3. 書名 Knowledge, education, and social structure in Africa	

1. 著者名 今川恭子(編著), 根ヶ山光一, 香田啓貴, 関 義正, 藤井進也, 蒲谷慎介, 石島このみ, 服部裕子, 高田明, 麦谷綾子, 市川 薫, 源 健宏, 岸本 健, 福山寛志, 横井浩史, 横井和恵, 矢吹佳子, 志村洋子, 市川 恵, 丸山 慎, 伊原小百合, 二俣 泉, 小井塚ななえ, 石川眞佐江, 市川 恵, 小川容子, 本多佐保美(著)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 音楽之友社	5. 総ページ数 328
3. 書名 わたしたちに音楽がある理由: 音楽性の学際的探究	

1. 著者名 Demuth, C., Raudaskoski, P., Raudaskoski, S. (eds.), Takada, A., Andren, M., Larrain, A., Haye, A., Aarsand, P., Cekaite, A., Ekstroem, A., Sirota, K. G., Forrester, M., Wiggins, S., Fantasia, V., Galbusera, L., Reck, K., Fasulo, A., Marie, C., Klemmensen, B., Karsten, A., & Bertau, M. C.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Lausanne: Frontiers Media SA	5. 総ページ数 173
3. 書名 Lived culture and psychology: Sharedness and normativity as discursive, embodied and affective engagements with the world in social interaction	

1. 著者名 ボニー・ヒューレット(著), 服部志帆, 大石高典, 戸田美佳子(訳), 園田浩司, 萩野泉, 四方篤, 市川光雄, 高田 明, 竹ノ下祐二(コラム・解題)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 414
3. 書名 アフリカの森の女たち: 文化・進化・発達の人類学	

1. 著者名 Tomaselio, M. (著), 橋彌和秀(訳)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 320
3. 書名 思考の自然誌	

1. 著者名 Cekaite, A., Mondada, L. (eds.), Goodwin, M. H., Monteiro, D., Tekin, B. S., Burdelski, M., Keevallik, L., Lefebvre, A., Mondeme, C., Merlino, S., Nishizaka, A., Heath, C., Luff, P., Goodwin, C., Smith, M. S., Meyer, C., & Streeck, J.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Abingdon, UK: Routledge	5. 総ページ数 344
3. 書名 Touch in social interaction: Touch, language, and body	

1. 著者名 加納圭, 水町衣里, 城綾実, 一方井祐子(編著), 元木環, 秋谷直矩, 高梨克也, 森幹彦, 森村吉貴	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 182
3. 書名 フィールド調査とビデオ記録を用いた対話の分析(研究者・研究職・大学院生のための対話トレーニング)	

1. 著者名 定延利之(編著), 中村美知夫, 園田浩司, 細馬宏通, 串田秀也, 村田和代, 高梨克也	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 244
3. 書名 維持されるものとしての発話の権利: クライアントの意向を尊重もしくは利用する	

1. 著者名 Alioum, I., Astier, M., Baujard, C., Bouttet, F., Cohen, L., Commend, S., Compte, R., Gaza, C., Guedard, C., Jaffres, F., Lebat, C., Lebat, C. A., Myazhiom, C. L., Maingari, D., Mercier, M., Noutcha, R., Poizat, D., Primerano, A., Rachedi, Z., Reichhart, F., Rioux, S., Saling, S., Sarralie, C., Toda, M., et. al	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Presses universitaires de Namur	5. 総ページ数 390
3. 書名 Au carrefour de l'alterite: Pratiques et representations du handicap dans l'espace francophone	

1. 著者名 Matsuda, M., Ochiai, T., Hirano-Nomoto, M., Agbiboa, D. E., Nakamura, K., Toda, M., Sakamoto, T., Mkodzongi, G., Sato, C., & Ezeh, P-J.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Langaa RPCID	5. 総ページ数 296
3. 書名 People, predicaments and potentials in Africa	

1. 著者名 飯田卓, 片岡樹, 里見龍樹, 高田明, 津村文彦, 中村潔, 馬場淳	4. 発行年 2019年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 360
3. 書名 コミュニケーション的存在論の人類学	

1. 著者名 Hewlett, B. L., Bombjakova D., Crittenden, A. N., Furniss, S., Headland, T. N., Hess, N., Howell, N., Kovats-Bernat, J. C., Le Bomin, S., Mckenna, J. J., Moise, R., Pandya, V., Purzycki, B. G., Quinlan, R. J., Reyes-Garcia, V., Takada, A., & Verdu, P.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 358
3. 書名 The Secret Lives of Anthropologists: Lessons from the Field	

1. 著者名 Beyer, K., Boden, G., Koehler, B., Zoch, U., Anyanwu, R-J., Barnard, A., Bemile, S. K., Chebanne, A. M., Diallo, A., Dimmendaal, G. J., Elderkin, E. D., Fehn, A-M., Gippert, J., Guldemann, T., Takada, A., et al.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Ruediger Koeppe Verlag Koeln	5. 総ページ数 377
3. 書名 Linguistics across Africa: Festschrift for Rainer Vossen	

1. 著者名 遠藤智子, 城綾実, 杉浦秀行, 高田明, 高梨克也, 森本郁代, 安井永子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 272
3. 書名 指さしと相互行為	

1. 著者名 松村圭一郎, 中川理, 石井美保, 中空萌, 山崎吾郎, 久保明教, 渡辺文, 深田淳太郎, 佐川徹, 高田明, 高橋絵里香, 松嶋健, 猪瀬浩平	4. 発行年 2019年
2. 出版社 世界思想社	5. 総ページ数 224
3. 書名 文化人類学の思考法	

1. 著者名 日本音楽教育学会, 高田明ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 株式会社音楽之友社	5. 総ページ数 248
3. 書名 音楽教育研究ハンドブック	

1. 著者名 池谷和信, 門脇誠二, 河村好光, 山本直人, 木下尚子, 田村朋美, 遠藤仁, 谷澤亜里, 山花京子, 末森薫, 戸田美佳子, 大塚和義, 印東道子, 後藤明, 中村香子, 野林厚志, 齋藤玲子, 中村真里絵	4. 発行年 2020年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 336
3. 書名 ビーズでたどるホモ・サピエンス史	

1. 著者名 Burdelski, M. J., Howard K. M., Garcia-Sanchez, I. M., Klein, W., Moore, E., Jaffe, A., Cekaite, A., Rymes, B., Leone-Pizzighella, A., Friedman, D. A., Bhattacharya U., Sterponi, L., Duff, P. A., et al.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Cambridge University Press	5. 総ページ数 274
3. 書名 Language socialization in classrooms: Culture, Interaction and Language Development	

1. 著者名 Beeman, W. O., Brown, T. W., Brison, K. J., Burdelski, M., Chen, R. S. Y., Corwin, A. I., Danesi, M., Decaro, J. A., Fenigsen, J., Fivush, R., Gryzman, A., Graber, K. E., Gratier, M., Kohl, O., Kunreuther, L., Lopez, G. L., Maryanski, A., McIntosh, J., Monaghan, L., Occi, D. J., Park, J. S-Y., Pederson, J. R., et al.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 454
3. 書名 The Routledge handbook of language and emotion	

1. 著者名 加藤重広, 澤田淳, 澤田治, 大島デイヴィッド義和, 滝浦真人, 井門亮, 松本曜, 高木智世, 小野寺典子, 椎名美智, 井上優, 内田諭, 小野正樹	4. 発行年 2020年
2. 出版社 研究社	5. 総ページ数 290
3. 書名 はじめての語用論	

1. 著者名 Lamerichs, J., Danby, S. J., Bateman, A., Ekberg, S., Kawashima, M., Maynard, D., O'Reilly, M., & Jol, G.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 216
3. 書名 Children and Mental Health Talk: Perspectives on Social Competence	

1. 著者名 諏訪正樹, 伝 康晴, 坂井田瑠衣, 高梨克也	4. 発行年 2020年
2. 出版社 春秋社	5. 総ページ数 272
3. 書名 「間合い」とは何か	

1. 著者名 田中廣明, 秦かおり, 吉田悦子, 山口征孝, 小野寺典子, 澤田淳, 柴崎礼士郎, 高梨克也, 後藤リサ, 定延利之, 西山佑司	4. 発行年 2019年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 272
3. 書名 動的語用論の構築へ向けて 第1巻	

1. 著者名 高田 明	4. 発行年 2019年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 236
3. 書名 相互行為の人類学: 「心」と「文化」が出会う場所	

1. 著者名 Nyamnjoh F. B., Buhler A., Nhemachena, A., Kaundjua M., Nkwi W. G., Manqoyi A., Masenya V. D., Santos D., Dewoo M. T., and Takada, A.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Langaa RPCIG	5. 総ページ数 358
3. 書名 Eating and being eaten: Cannibalism as food for thought	

1. 著者名 S. マロック・C. トレヴァーセン(編), 根ヶ山光一, 今川恭子, 蒲谷慎介, 志村洋子, 羽石英里, 丸山慎, 高田明ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 音楽之友社	5. 総ページ数 656
3. 書名 絆の音楽性 - つながりの基盤を求めて	

1. 著者名 根ヶ山光一, 外山紀子, 宮内洋, 高田明ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 金子書房	5. 総ページ数 185
3. 書名 共有する子育て: 沖縄多良間島のアロマザリングに学ぶ	

1. 著者名 Hasegawa, Y., Morita, E. et al.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Cambridge University Press	5. 総ページ数 786
3. 書名 Cambridge Handbook of Japanese Linguistics	

1. 著者名 橋彌和秀, 王暁田, 蘇彦捷(編)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 400
3. 書名 進化心理学を学びたいあなたへ パイオニアからのメッセージ	

1. 著者名 後藤明, 戸田美佳子ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 南山大学人類学研究所	5. 総ページ数 -
3. 書名 天文学と人類学の融合 それぞれの大地、それぞれの宇宙(じんるいけんBooklet vol.4)	

1. 著者名 Favareau, D., Aronsson, K., Burdelski, M., S. A., Hayashi, M., Iwasaki, S., Kendon, A., Kern, F., Koschmann, T., Kuroshima, S., Lindwall, O., Ivarsson, J., Mcilvenny, P., & Raudaskoski, P., Mcnell, D., Morita, E., Nevile, M., Nishizaka, A., Takada, A., et al.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 The University of Tartu Press	5. 総ページ数 418
3. 書名 Co-operative Engagements in Interwined Semiosis: Essays in Honour of Charles Goodwin	

1. 著者名 池谷和信(編), 小野林太郎, 那須浩郎, 鶴見英成, 小泉都, 佐藤廉也, 金沢謙太郎, 大石高典, 稲村哲也, 関野吉晴, 八塚春名, 手塚薫, 信田敏宏, 高田明, 松浦直毅, 小谷真吾, 服部志帆, 大橋麻里子, 加藤裕美, 山本太郎	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 320
3. 書名 狩猟採集民からみた地球環境史: 自然・隣人・文明との共生	

1. 著者名 松岡悦子(編), 小浜正子, 菅沼ひろ子, 日隈ふみ子, 安井真奈美, 白井千晶, 菊池真理, 鈴木七美, 磯部美里, 高田明, 上野加代子, 安里和晃, 青木加奈子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 309
3. 書名 子どもを産む・家族をつくる人類学: オールタナティブへの誘い	

1. 著者名 Keller, H. & Bard, K. A. (Eds.), Bard, K. A., Beeghly, M., Chen, S. H., Chisholm, J., Finlay, B. L., Gaskins, S., Gazzola, V., Gernhardt, A., Giedd, J., Gottlieb, A., Hawkes, K., Hopkins, W. D., Johow, J., Kalcher-Sommersguter, E., Keller, H., Liu, C. H., Myowa, M., Takada, A., Tomoda, A., et al.	4. 発行年 2017年
2. 出版社 MIT Press	5. 総ページ数 448
3. 書名 The cultural nature of attachment: Contextualizing relationships and development	

1. 著者名 David Premack(著), 橋彌和秀(訳)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 252
3. 書名 ギャバガイ! 「動物のことば」の先にあるもの	

1. 著者名 岩崎勝一, 遠藤智子, 大野剛, 岡本多香子, 片岡邦好, 兼安路子, 鈴木亮子, 中山俊秀, 秦かおり, 東泉裕子, 横森大輔(編)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 268
3. 書名 話しことばへのアプローチ: 創発的・学際的談話研究への新たなる挑戦	

1. 著者名 P. A. Duff & S. May (Eds.), Cook, H. M. & Burdelski, M. et al.	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 464
3. 書名 Encyclopedia of language and education: Language socialization	

1. 著者名 J. Culpeper, Mills, S., Kienpointner, M., Spencer-Oatey, H., Zegrek, V., Pizziconi, B., Christie, C., Daniel, Z. K., Hardakar, C., Sifianou, M., Ohashi, J., Cook, H. M. & Burdelski, M. et al.	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 824
3. 書名 Palgrave handbook of linguistic (im)politeness	

1. 著者名 A. Feuerstein & C. Nolte-Odhiambo (Eds.), Flegel, M., Kidd, K., Feuerstein, A., Gillett, J., Struzik, J., Pustulka, P., Ottoman, C., Lands, T., Jaques, Z., Lesuma, C. K., Huebben, K., Ashman, A. L., Feuerstein, A., Woodward, W., Lawson, K., Bocquillon, M., de Rijke, V., Pettersson, A., & Burdelski, M. et al.	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 298
3. 書名 Childhood and pethood in literature and culture: New perspectives in childhood studies and animal studies	

1. 著者名 A. Bateman & A. Church (Eds.), Busch, G., Canty, J., Carr, M., Cekaitė, A., Chorssen, C., Cromdal, J., Dalgren, S., Danby, S., Barajas, K. E., Evaldsson, A-C., Farrel, A., Filip, A., Forrester, M., Gardner, R., Houen, S., Burdelski, M. & Morita, E. et al.	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 369
3. 書名 Children and knowledge in interaction: Studies in conversation analysis	

1. 著者名 中牧弘允(編)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 432
3. 書名 世界の暦文化事典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

承認をめぐる間主観性の発達に関する研究 http://www.cci.jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/dir/ 上記の英文HP http://www.cci.jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/dir/en/
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	川島 理恵 (Kawashima Michie) (00706822)	京都産業大学・国際関係学部・准教授 (34304)	
研究分担者	橋弥 和秀 (Hashiya Kazuhide) (20324593)	九州大学・人間環境学研究院・教授 (17102)	
研究分担者	バーデルスキー マシュー (Burdelski Matthew) (80625020)	大阪大学・文学研究科・教授 (14401)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	遠藤 智子 (Endo Tomoko) (40724422)	東京大学・総合文化研究科・准教授 (12601)	
連携研究者	高梨 克也 (Takanashi Katsuya) (30423049)	滋賀県立大学・人間文化学部・教授 (24201)	
連携研究者	高木 智世 (Takagi Tomoyo) (00361296)	筑波大学・人文社会系・准教授 (12102)	
連携研究者	戸田 美佳子 (Toda Mikako) (20722466)	上智大学・総合グローバル学部・准教授 (32621)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計6件

国際研究集会 6th Seminar on the Development of Intersubjective Recognition	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 5th Seminar on the Development of Intersubjective Recognition (Online delivery)	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 4th Seminar on the Development of Intersubjective Recognition	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 3rd Seminar on the Development of Intersubjective Recognition	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 2nd Seminar on the Development of Intersubjective Recognition	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 1st Seminar on the Development of Intersubjective Recognition	開催年 2018年～2018年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------